

## 里小路と武家屋敷跡

東山代町里

「親種寺と田尻家」で簡単に述べておるが、天正十七年田尻鑑種(あきたね)は筑後柳川の鷹尾城から山代郷に移住され彼に従属する者66名と共にこの地に移り住む事となった。寛永四年初代藩主勝茂の庶子、元茂が小城に支藩を設立することとなり、春種の子、昌種は元茂に仕えるに及び山代は小城領となった。

山代の地に移封された田尻氏並びその一族は里一帯を開き、住居と定め、大名屋敷を形どり東西に本道を通し、南北に夫々小路を設け個々の住居を建てた。本道の両側と南北小路の家屋の境に矢竹の小笹の生垣を植え、あたかも大名屋敷の形態を形どり一族はここを居所とした。そして半士半農をもって生業とし、当首田尻氏は鹿山に居住を定め（現在西原氏の屋敷）小城の居所を上屋敷山代鹿山を下屋敷と呼び、明治34年11月10日種博氏逝去まで、小城と山代を居所としたと思われる。

